

第40回津市総合教育会議議事録

日時：令和2年8月24日（月）

午前11時開会

場所：津市教育委員会庁舎4階 教育委員会室

出席者

津市長

前葉泰幸

津市教育委員会

教育長 森昌彦

委員 中村光一

委員 滝澤多佳子

委員 富田昌平

事務局 定刻になりましたので、前葉市長から第40回津市総合教育会議の開催の御挨拶をお願いいたします。

津市長 ただ今より第40回津市総合教育会議を開催します。よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは本日の協議・調整事項であります「津市GIGAスクール構想の実現について」に入りたいと思います。まず、「津市GIGAスクール構想の実現について」、事務局から御説明させていただきます。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 津市のGIGAスクール構想の現状と今後の方向性について、御説明させていただきます。資料の②を御覧ください。昨年度、国が令和5年度までに小中学校の児童生徒に1人1台端末を整備する「GIGAスクール構想」を打ち出したことを受け、津市においては、令和2年度中に各学校へ大容量の高速通信ネットワークと端末を収納するキャビネットを整備するための予算約6億円を、今年の3月補正予算に計上いたしました。また、令和2年度は1人1台端末を小学5・6年生と中学1年生の児童生徒に配付し、国が目標とする令和5年度までに、順次全ての学年に行き渡るよう計画しておりました。そのような中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、臨時休業が長期化し、教育課程の実施に支障が生じる事態に備え、遠隔授業などを早期に実現させるため、国が令和2年度中に全学年の児童生徒に1人1台端末を確保するための支援を加速させました。津市におきましては、小学校に1万3,902台、中学校に6,556台、指導者用端末として769台を整備するための予算約1.1億円を、今年の6月補正予算に計上いたしました。現在、各学校において、校内通信ネットワーク整備と1人1台端末を保管及び充電する電源キャビネットを設置する工事を実施しており、今年度末には全ての学校に校内通信ネットワーク及び1人1台端末が整備される予定です。

次に、来年度から始まる1人1台端末を活用した授業について、説明させていただきます。資料の②を引き続き、御覧ください。今まで教員が主導し、進めることが多かった一斉授業につきましても、デジタル教材を効果的に活用することにより可視化や共有化が図られ、子どもたちにとって、より一層分かる楽しい授業になるのではないかと考えています。また、今までは教員が授業中に子どもたち全員の考えや思いをしっかりと把握することが難しかったのですが、端末を活用することにより、これまでなかなか自分の思いや考えを伝えることができ

なかった子どもが様々な方法で表現することが可能になったり、不登校の子どもが教員や友達とつながりながら授業に参加することが可能になったりすることも考えられます。また、デジタル教材や学習支援サイト「津市e-Learningポータル」を活用することにより、子どもたちのニーズや学習状況に応じた個別学習が可能となるため、子どもたちの興味や関心、習熟度に合わせて家庭学習を行ったり、それぞれの居場所から教員や友達とつながりながら学んだりすることができます。さらに、子どもたちの学習履歴のポートフォリオが作成されていくことから、教員が今まで以上に一人一人の学習状況や習熟度等を把握することができ、より一層「個」に応じた指導につなげていくことが可能になります。

次に、資料の④を御覧ください。子どもたちはステップ1からステップ3の学習を展開していくわけですが、学習に当たり、まずは先生が端末を活用して授業ができる指導力と対応力を高めることが必要になると考えております。

そこで、資料の⑦を御覧ください。9月以降、教員への研修を計画しております。9月に入りましたら、三重県教育委員会と連携し、一斉研修会を行いたいと考えています。ここでは、「GIGAスクール構想」が目指すところの理解を図るため、今後どのような方向性で進めていくかを説明するとともに、ICTの効果的な活用方法や注意点等について、先進事例の紹介を交えながら研修します。そして10月以降の半年間は、ステップ2、ステップ3、ステップ4というかたちで、端末の基本操作、アプリを使った授業の進め方、プレゼン、スライドショーの作成方法等、端末を使った具体的な授業について、各学校での研修会やOJT研修を実施しながら進めていきたいと考えております。これらの研修会については、現在、サポートに当たるGIGAスクール支援員の導入を検討しているところであり、本年度3月末までに全ての学校で準備を整えていきます。

本日、動画を用意させていただきましたので、子どもたちが授業の中で1人1台端末をどのようなかたちで使っていくのか、その一端を見ていただきたいと思います。

～「津市e-Learningポータル」の画面～

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長　これが「津市e-Learningポータル」です。全ての学年の主要教科について、子どもたちが自分で選んで見るができるようになっております。今は、少し堅苦しい画面になっておりますので、変えていこうということで、子どもたちが馴染みやすい画面にするため、三重大学教育学部と一緒に考えているところです。今見ていただいているのは教育委員会のコースなのですが、それとは別に各学校のコースもあり、家庭

で復習をするときの材料として、毎日のように「津市 e - L e a r n i n g ポータル」を使っている学校もあります。今から、橋北中学校の先生が作ったコンテンツで、技術の先生が使っているものを一つ見ていただきたいと思います。

～動画（技術）～

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 学校で授業をした後、子どもたちがもう一度、家庭で端末を見て復習できるように、それぞれのコンテンツが貼り付けてあります。復習に使えるよう、授業したものを全て貼っているという学校もあります。また小学校においては、学校で使ったプリントをもう一度家庭でできるように、ワークシートをたくさん貼っている学校もあります。

それでは、今から小学校の英語の時間の様子を見ていただきます。ALTが作った津市のチャンツを、授業の始めに皆で歌いながら覚えています。

～動画（英語）～

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 子どもたちが単語を覚えられるよう、ALTがつくったワークシートが貼ってあります。ALTは毎日学校にいるわけではありませんので、子どもが家庭で使ったり、授業中に先生が使ったりできるように、こういったカードと音声を合わせてアップしています。

子どもたちが自分で指を指しながらゲーム感覚で学習しています。こういったものを家庭学習で使うとともに、英語の授業の開始前に触れて、活用している学校もございます。

次に、特化研究プロジェクトにおいて、すでに iPad を使って先進的に授業をしている明小学校の様子を見ていただきます。図工の時間です。このクラスは4月から iPad を使って、授業をしております。津市では、ロイロノートというアプリを使って今後の授業を展開していきたいと考えており、明小学校でも、この4月からロイロノートを導入して、子どもたちがプレゼン力を身に付けられるよう、授業を展開してきました。7月に授業をしたときの様子を見ていただきます。

～動画（明小学校・図工）～

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 子どもたちが作った作品を紹介し合う授業です。自分がアピールしたいところをカメラで撮影する作業をしています。画面の中で、キーボードで文字を打つか、ペンで書くかを選択できます

ので、文字を打つ子と書く子の二通りに分かれます。そして、いよいよ発表です。子どもが全ての端末操作をしています。工夫したところを丸で囲って、文字を添えた画面を使って説明します。このような形で授業が展開されているという一端を見ていただきました。これは明小学校4年生の図工の授業ですが、他の教科でも1人1台端末を活用しています。今は4年生と6年生が主に使っているのですが、6年生はもう少し高度な課題に挑戦しながら、友達同士で情報交換する協働学習も進めているところです。1人1台端末は、本当に多くの可能性があると思っておりますので、教える側がしっかりと力を付けて、4月から授業の中で活用していけるよう、準備していきたいと思っております。説明は以上です。

津市長 次に、私が提出した資料を御覧いただきたいと思えます。1枚目は、8月1日号の広報の市長コラムです。津市のGIGAスクール構想を、どのように実現しようとしているのかというこれまでの流れを市民の皆さんにお知らせしました。

2枚目も8月1日号の広報ですが、第2弾の補正予算の中で1人1台端末の導入に向けて10億9,525万円の予算を組んだということ、新型コロナウイルス感染症に係る支援策の一つとして掲載しております。

3枚目は、6月26日に知事に対して緊急要望をした中の1項目になります。GIGAスクール構想で2万1,227台の端末を整備するのですが、実際に来年度からこの端末を使った授業が始まるので、今見せていただいた明小学校の先生1人の話ではなく、全教員が端末を自由に使えるような状態にしていかなければなりません。これは簡単なことではないので、三重県もいろいろと研修を計画中だとは思いますが、充実してくださいというお願いをしてきました。

資料の⑦を御覧いただきますと、ステップ1のところ、三重県教育委員会が情報教育推進研修会をしていただくことになっていますが、これは津市オリジナルですか。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 オリジナルです。

津市長 津市では、まず、情報教育推進研修会で全体的な話を県教委にしてもらい、その後、端末活用研修会に入っていくというかたちにさせていただきました。本日午後2時からの発表ですが、この端末活用研修会は、市教委の指導主事だけではなかなか大変ですので、臨時にサポートするGIGAスクール支援員を配置するというので、10人分の費用を9月補正予算に計上する予定です。補正予算が通れば、10月からGIGAスクール支援員が研修をサポートし、来年の4月には全教員が自信を持って端末を使える状態にしていきたいと考えていま

す。

以上、補足的な説明をさせていただきました。では、御自由に御意見を願います。

教育長 中村委員。

中村委員 G I G Aスクール構想に合わせ、非常に先進的な取り組みをされていると感じました。先ほどのプレゼンについて、小学生の時からこういうかたちで学んでいけば、将来、例えば津市職員になったときには、いいプレゼンができるだろうと思いますので、とても楽しみです。

一つだけ、自宅学習をするときのネット環境が整っていない家庭への対応が心配されるのですが、導入される i P a d はセルラータイプではなく、W i - F i タイプだと思うので、W i - F i がいない環境では使えないと思います。しかしながら、i P a d にダウンロードしたアプリを使って学習するということは非常に効果的だと思いますので、ネットワークを介した学習だけではなく、例えばドリル的なアプリを入れるなど、いろいろな手法を使って取り組んでいただければと思います。

津市長 家庭での学習についてですね。学校ではW i - F i 環境を整えますが、家庭ではどうですか。

教育研究支援担当参事(兼)教育研究支援課長 全ての学校で、各家庭の状況を一齐に調査させていただいたところ、回答いただけなかった家庭を含めて1割弱の家庭にW i - F i 環境もしくは端末がないという結果になりました。先進的な取組をしている他市の学校に聞き取ったところ、先ほど中村委員がおっしゃったようにW i - F i 環境のない家庭については、学校で必要な動画やプリントをダウンロードしてから、端末を持って帰っているとのことでした。ネット環境がなくても、動画を見ながらプリントをするという家庭学習が非常に効果を上げているということを聞いております。学校で定着が図れなくても、動画を持ち帰り、家庭学習に使える、今の家庭学習のやり方より数段力が付けられるのではないかと思いますので、そういったことも参考にしていきたいと考えております。

津市長 富田委員、どうぞ。

富田委員 非常に興味深い動画を拝見させていただきました。1人1台端末が

急に決まった背景には、ICTを活用した教育の実践力は現場で鍛えようという考えがあったのではないかと思います。もちろん養成校でも取り組んでいくのですが、助走なしにいきなり飛び込むというような感じで、これはもうやらざるを得ません。逃げ場がない状況ですので、現場で鍛えなさいという国のメッセージではないかと感じています。ですから、研修がとても大事になると思うのです。先ほどの技術の動画は、始めの部分が無言だったので、あまり楽しくないなとは思いましたが、こういう映像というのは恐らく古びることがなく、研修ではとても役立つと思います。従来は現地に行かないと研修を受けられなかったのが、教員がこの動画を見て、他の先生はこのようにやっているという先進的な事例を学ぶことができるので、非常にいいなと思いました。

実はうちの大学では、つい先日、予定されていた主免許実習と副免許実習が全て中止になりました。この実習がなくなるというのは、教員の質の確保という面で大問題となります。学内で模擬授業をやってもあまり効果がないような気がしますし、今後、このコロナの状況がどれだけ続くか分からないので、数年間は実習経験が非常に少ない新任教員が現場にやってくるということが続くと思うのです。そうなった場合に、もちろん養成校でも取り組んでいくわけですが、こういった動画があると、新任教員のための研修に非常に役立つだろうと感じました。

それから、もう一点、私は幼児教育・保育が専門ですので、そのところで少し気になることがあります。おそらく、国のGIGAスクール構想の対象に幼児教育・保育は含まれていません。保育の実践の中でICTを活用するというのは、現実にそれほどないのですが、幼児教育・保育の現場にいる教職員が情報弱者になってしまうのはまずいと思うのです。小学校以上の先生は、こうした研修の素材を見て学んでいけますが、幼稚園の先生が、リモート学習のノウハウやスキルを全く持っていないというのは困ると思いますので、その辺りのことを考えていくことも大切だと思いました。

津市長 ありがとうございます。2点いただきました。教育長、どうぞ。

教育長 明小学校の実践について、まだまだ改善の余地はたくさんあるのですが、一つの到達点として、まず、先生たちに研修を通して、このようなかたちの授業になっていくというイメージを持ってほしいと思っています。先生たちが、個人でパソコンを使ったり、QRコードで読み取った画面を見たりするだけでいいと思っていると困りますので、先ほど紹介した3月までに実施する研修の中で、目指す姿を知らせることが、とても大事だと思います。今、富田委員がおっしゃったように、まずは、こういったものを見てもらうのが重要だと思っ

ています。

津市長 この明小学校の先生は、どうやってここまでできるようになったのでしょうか。他の先生たちは、ここまでできるようにするために、どのように取り組めばいいのか知りたいと思うのです。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 この先生は研修を経て、このようなかたちで授業ができるようになりました。津市にも養成研修がありますし、県の研修にも代表で出ていただきました。この先生からまず、6年生の先生に広げていっていただいて、ようやく明小学校では他の学年の先生たちも、ある程度できるような状況になってきました。リーダーになれる先生が各学校に1人いると、モデルにもなりますし、スキルを教えていただけるので、少しずつ裾野を広げているような状況です。

津市長 この意見について、いかがですか。

教育長 学校訪問の際に校長先生の話を知ると、核になる先生というのは間違いなく若手の先生です。自分たちの年代の先生に対して、教える立場になるのは20代後半や30代の若い先生で、既にICTを活用して授業をしている先生もたくさんいます。大体そういう先生が各学校に1人はいるので、単にGIGAスクール構想でICTの活用を進めるということだけではなく、広い意味での人材育成にもつながると思っています。若手の先生が中心となり、年配の先生たちに教えるということを通して、ゆくゆくは中核的な教員になっていくということを、一つ大きな視点として大事にしたいと思っています。

津市長 富田委員。

富田委員 各学校において若手の先生が核になって進めていくということは、当然あると思うのですが、その先生が疲弊しないように気を付けていただきたいと思います。三重大学ではMoodleを使っているのですが、60代ぐらいの先生方に呼ばれてMoodleの使い方を教えに行くと、毎回、一からになります。全部リセットされているので、すごく時間がかかりますし、特に情報に強い先生が頻繁に呼ばれて、かなり疲弊しています。

津市長 疲弊しないような配慮が大切ということですね。

では2番目の件について、お願いします。幼児教育・保育の現場ではICTの

活用といったことが、すぐには進まないだろうから、幼稚園の教職員が情報弱者になり、小中学校の教職員と差が付いてしまうという件に関して、いかがでしょうか。

学校教育・人権教育担当理事 現在、公立の幼稚園と小学校の連携を非常に大事にしております。ですので、今後、職員が交流する中で、幼稚園の先生たちに小学校へ行ってもらって、低学年でも1人1台端末を使ってこういうことをやっているということ、まず知ってもらうことが大事だと思います。そして幼稚園の先生に、幼稚園の現場で何ができるかということにつなげていってもらえればと思っています。幼稚園では、子どもたちが実物に触れることや、いろいろな体験をすることを非常に大事にしていますので、そういう体験を経た上で、初めて情報機器を使うことに価値が出てくると考えています。幼稚園、小学校、中学校の役割がそれぞれあると思いますので、お互いに共有しながら、取り組めればと思っています。

津市長 滝澤委員、よろしく申し上げます。

滝澤委員 先ほど、年齢の若い先生は対応しやすいというお話があったのですが、資料⑥に「本市における教職員のICT活用指導力の実態」というのがあって、比較的、基本的なことは多くの先生ができるのですが、ICTを活用して更に深めるような指導が、なかなか難しいと思っていることがわかります。

一番下の「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する」というのは、26.2パーセントの先生が「あまりできない・ほとんどできない」という回答です。今年度は研修を一生懸命やっていたと予定ということをお伺いしたのですが、なかなか一朝一夕には難しい部分もあろうかと思えます。時間もかかるし、先ほど富田委員が言われたように、何回も同じことを指導していかないと身に付かないというところもあろうかと思えます。これを100パーセント近くまで持っていかないといけないと思うのですが、もう4月まで時間がないので、GIGAスクール支援員の導入を考えていただいたと思うのです。担任の先生の実力次第で教育内容に差が出てくる可能性がありますので、いかにこのGIGAスクール支援員をうまく活用できるかということが、キーになってくるのではないかと思います。まず、このGIGAスクール支援員をどのように活用するのか、お聞きしたいです。

もう一つは、子どもたちが学校でこういった情報機器に触れることによって、家庭でも自分で勝手にいろいろなメディアに接するようになり、もしかすると

自分から情報発信したり、フェイクニュースや選別されていない情報を真に受けたりする可能性があるのではないかと思います。これは、非常にリスクですので、情報に振り回されず、正しい情報を選別したり、自分をコントロールしたりする力を、発達段階に応じてしっかり養っていくということが、非常に重要になってくると思います。正しくICTを活用するための教育を、どのようなかたちで進めていかれるのか、お伺いしたいと思います。

津市長 教育研究支援担当参事、お願いします。

教育研究支援担当参事(兼)教育研究支援課長 GIGAスクール支援員についてですが、それぞれ教員の持っている力が違いますので、まず、各学校において先生たちがどれぐらい対応できるのか、困っているのはどこかということ、正確に把握して、リストを作っていきます。指導主事だけでは、なかなか個々の教員の力を把握できませんので、2中学校区に一人、GIGAスクール支援員を配置し、各学校の実態把握にGIGAスクール支援員の力を活用したいと思っています。把握した後に、リストを確認しながら、GIGAスクール支援員に各学校を巡回していただきます。例えば、全体的に弱い学校には、その学校にあった内容の研修会をするとか、個々の力にばらつきがある学校には、それに応じた対応をとるなど、ニーズに合ったサポートをしていただく予定です。

メディアリテラシーやモラルについては、これからICT教育が盛んになっていくことを見越して、今も道德の教科書にふんだんに盛り込まれていますので、そこで子どもたちに指導していきます。また、情報の使い方を誤れば、人を傷付けることにもなりかねませんので、道德の授業だけではなく、あらゆる場面で、情報の選択などについてしっかりと教えていきたいと思っています。また、現在、「津市GIGAスクール構想の手引き」を作成しており、その中で情報モラルについて、この学年ではここまでやってほしいというところをしっかりと明記し、先生たちが共通理解を持って指導できるよう、これから半年間で準備していきたいと思っています。

滝澤委員 このSociety 5.0というのは本当に夢のような世界なのですけれども、今が、そこに生きる子どもたちを養成していく始めの第一歩だと思います。国がこれだけの予算を投入して、全国津々浦々で、1人1台端末とLANの整備をするというのは、本当に画期的なことで、コロナがなければここまでにはならなかったのではないかと思います。諸外国ではかなり進んでいるようですので、試行錯誤しながらSociety 5.0に生きる子どもたちが十分に対応していけるよう、一步一步着実に進めていっていただきたいと思いま

す。

津市長 富田委員がおっしゃった「いきなり助走なしで飛び込んでいくことになる」というお話と、滝澤委員の「担任の先生の能力次第で差がついてしまうのではないか」というお話は、共通の御心配だと思うのですが、その辺りはどうですか。全ての子どもたちが同じように端末を使えるようになるかどうか、担任の先生の腕次第にならないかという心配をどうやって乗り越えようと思いますか。

教育長 市長が市議会で、「子どもたちがパソコンを文房具のように使えるように」とおっしゃったのですが、最終的に目指すところはそういうことだと各学校に話をさせていただいているところです。この1人1台端末を活用すると、今までとは違う、こんな子どもたちの姿が見られて、これは良いということ、まずは先生たちに実感していただくことが何よりも大事だと思います。

だいぶ日が経ちましたが、市長が知事のところへ緊急要望に行っていた当時、我々行政の者と学校現場では、随分温度差があるということを感じていました。まずは先生たちに火が付かないと、絶対に子どもたちにとって良いものにならないので、まずは先生たちの意識を高めるための研修を是非やっていただきたいとお願いしてきた記憶があります。これから半年間の私たちの仕事は、端末をこういうやり方でこんなふうに使ったら、子どもたちはきっと喜んで、もっと意欲的になるというようなことを、どれだけ先生たちに伝えられるかということが中心になってくると思います。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 書画カメラと大型テレビを導入したときも、最初はあまり使われていない状況があり、子どもたちの手元にある教科書だけで勝負していたのですけれど、今ではどこへ行っても書画カメラで大型テレビに映して、共有しながら授業を進めています。先生たちが活用の仕方を知ったことで、今ではなくてはならないものになっています。

また、デジタル教科書を試行的に導入した学校があり、今年で3年目になるのですが、例えば国語で、今まで先生たちが一つずつ漢字の書き順を指導していたところを、今ではルビもすぐに出て便利なので、たくさんの準備をしなくても授業ができるようになっていきます。高茶屋小学校などでは、前の授業の板書を大型テレビに写して、次の授業をします。そうすると、子どもたちは前の授業の内容を振り返りながら授業を受けられるので、より定着が図られます。従来は、先生が模造紙に自分で書いたり、写真を撮って大きく引き伸ばしたり、といってもA3ぐらいまでしか引き延ばせなかったのですが、準備がとて

も大変でした。教育長がおっしゃったように、ICTを活用するとこんなにいることがあるということ、これから半年間でいかに私たちが伝えられるかが大事だと思っております。

津市長 教員が納得していかないといけないということですね。

教育長 間違いなく、教材作成の効率化や、教員の負担軽減にはつながると思います。ちょうど今、新しい教科書が変わるところなのですが、例えばQRコードを読み込んだら、カラーで非常によくわかる動画の解説が、すぐに見られます。先生の説明が要らないぐらいの解説になっているので、今まで先生たちが時間をかけて準備していたことを、全然やらずとも授業ができるのです。きっと実際に使ってみれば、わかっただけのものではないかと思えます。とにかく最初は、覚えていくための様々な研修を受け、それを通して先生たちが「これは良いな」という意識を持ってほしいと思っています。

津市長 ありがとうございます。私から、2点あります。

まず1点目は、資料の⑧を御覧いただきたいと思えます。「1人1台端末導入スケジュール」の中のOSの話ですが、小学校はiPadで、中学校はWindowsということにしました。これは、教育委員会が勝手に決めたのではなくて、第三者委員会で意見を聞きながら決めたわけです。決まった以上、そうすることの強みを積極的にお知らせしていく必要があると思えます。教員に対してだけでなく、市民や保護者にも、子どもたちが小学校でiPad、中学校でWindowsの使い方を学べることで、結果として、この情報社会で生き抜いていく力につながるんだと説明できないといけないと思えます。これは逆から言うと、ChromeBookを使わないということは、ChromeBookは使わなくても大丈夫ということをはげなくしてはいけませんので、その辺りを上手く伝えていかないといけないと思えます。

2点目は、この週末から起こっている戸木小学校の件についてです。2年生は全員が休業になり、他の学年では濃厚接触者になった子どもたちが、陰性ではあったものの、健康観察で2週間、出席停止になりました。前者の2年生は家にいる2週間、全員が宿題をするために「津市e-Learningポータル」を活用するということになりますが、後者は、対象となった子どもたち以外は普通に授業を受けているわけです。対象となった子どもたちだけが学校に出られずの状態なので、どうにかその子どもたちを自宅から授業に参加させられないかを考えるべきだと思うのです。これは、状況に応じて上手くやっていかなくてはならないのですが、現場にそういうコントロールセンターがないと、自身も自

宅待機になった担任の先生一人の力ではなかなかできないし、対象者が複数の学年にまたがっているのも、より難しいと思います。今回はたまたま戸木小学校で起こってしまったのですけれど、今後、どこでも起こり得る話です。一步一步だと思いますが、良いかたちで積み上げていただき、仮に学校が休業になったり、個人が出席停止になったりしても、学習についてはパソコンが一つあれば大丈夫というところまで行きたいという高い志を持っております。以上、2点についてよろしく申し上げます。

教育長 まず、小学校と中学校でOSを分けたことの意味ですが、今は幼稚園児、極端なことを言えば2歳、3歳の幼児でも親のスマートフォンやタブレットを触っています。そのような世の中ですので、取っ掛かりやすいという意味で、小学校はiPadになりました。中学校もそのままiPadでいくという意見もあると思いますが、将来のことを考えたときに、iPadだけではなく、他のOSにも触れておいてほしいということで、変えたいという気持ちがありました。WindowsなのかChromeなのかというところはあるのですが、両者ともそれぞれいいところがあるので、何を取るかということになってくると思います。その辺りは、教員や保護者に丁寧に説明していかないといけないと思っています。

今回、戸木小学校では2年生以外は、授業が進んでいるのだけれど、出席停止になった子どもたちは学校へ行けないという状況になりました。Zoomを使ってライブで授業を受けさせるということを試してみようとは思っているのですが、まだ準備が整っておりません。ライブではありませんが、例えば、授業の様子を録画して、それをインターネット上にアップし、家庭で見て学習してもらうという体制はとれるかと思っています。市長が言われたように、ライブ形式で授業を受けてもらうことが最終的な目標の一つではありますが、今の段階では、子どもたちの「今日はどんな授業をしたのかな。気になるな。」という不安に対して、録画を見てもらうことで、応えられるような環境を作りたいと思っています。

津市長 今回はたまたま出席停止ですけれど、例えば不登校になりかけている子どもが少しずつ学校から離れてしまい、ますます行けなくなってしまうことがあると思います。自分は教室に姿を現したくないけれど、パソコンが一台あれば家で授業に参加できるという状況を作ることができれば、不登校の子どもたちへの対応もかなりできるのではないかという未来も感じています。あるいは病院に入院している子どもたちへの対応も可能だと思います。子どもたちがそういった恩恵を受けられると良いなと思っています。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 OSについて、高校はWindowsとChromeを採用しています。Windowsは社会へ出たときに、やはり必要だろうということで選択しており、Chromeは使いやすいということで、Chromeを中心にしつつ、どちらも併用して使っていくと聞いています。

他市町では、Chromeが少なく、iPadを使うところ、Windowsを使うところ、各地域によって様々です。その中で、津市が小学校と中学校でOSを分けたことについて、子どもたちが社会に出た時に、OSに関わらず端末自体をしっかり使えることが大事なのではないかという御意見をたくさんの方々からいただきました。また、子どもたちは学校でしっかりと使えるようになっていくので、OSにこだわる必要はないという声もいただいております。私としては、津市の子どもたちは小学校のときにiPadが使って、中学校に行ったらWindowsも使って、高校へ進学した場合はChromeも使えるということで、どのOSにも対応できる子どもたちが社会に出ていってくれたら嬉しいなと考えています。与えていただいたものをしっかりと使わせていただきたいと思っています。

戸木小学校の件については、昨日、戸木小学校の先生たちと打ち合わせをして、今日も担当職員が行っているのですけれど、一人でもできる子がいれば、この機会にZoomを使ってやってみたいと学校は言ってくれています。ただ、御家庭の協力も要りますので、今日中にとというのは難しいですが、調整しながら2週間のうちにはやってみたいと思っています。それができれば、一つのモデルになり、今後につながっていくと思いますので、教育委員会としてもしっかり支援していきます。

津市長 他にいかがですか。富田委員、どうぞ。

富田委員 今回のことは、本当に初めてのことなので、先生たちは非常に大きな困難を乗り越えていかなければならないと思います。その場合に、自分の大学でもそうだったのですが、情報交換の場があると良いと思います。先ほど申し上げましたMoodelは、情報交換の場にもなっていて、どんどん好事例が発信され、蓄積されています。好事例がだんだん高度に、完璧になっていくので、あまり見過ぎると辛いものがありますが、このくらいでいいのかなと見当をつけてやっていけるようになったり、やり方を工夫する手立てになったりするので、とても便利です。そういう情報交換の場を作り、Q&Aを蓄積していければ、他校の先生たちの取組にもどんどん繋げていけるので、良いのではないかと思います。

津市長 他にいかがですか。中村委員。

中村委員 正直、私は結構、楽観視しています。というのは、私も実は iPad を使ったことがありませんでした。今回、これに合わせて私も iPad を買ったのですけれど、非常に楽です。iPad が届いて箱から出しても、何の説明書もありませんでしたが、電源を入れたら勝手に画面が立ち上がり、「iPhone を近づけてください」と表示されたので、近付けてみたら iPhone に入っているアプリが自動的にインストールされて、iPhone の環境がすぐさま iPad で同じように使えました。できることが多くて、非常に操作性も高いです。

また、今までは本屋さんに行ったり、Amazon で取り寄せたりして本を買っていましたが、電子書籍を始めたら電子書籍ばかりになってきました。どんな本でも揃っていて本当に便利です。ですから、先生用の端末もあるので、個人で使うのと共用として使うのでは、少し違うかもしれませんが、使っているうちに書画カメラと同じように慣れてくると思いますので、おもちゃと言うとおかしいですけど、先生たちもそれぐらいのつもりで使っていただけたらいいのかなと思います。

津市長 滝澤委員、どうぞ。

滝澤委員 先ほど市長が言われたように、休んでいる子や病気の子がリアルタイムで授業の様子を見られることはとても良いことだと思います。そういう子どもたちが恩恵を享受できるよう、取り組んでいただくということで非常に期待しています。

そのためにはある程度の予算が必要になってきますので、これを推し進めていくんだという津市の姿勢を予算化し、先生たちの研修をしたり、子どもたちが休んでいても授業に参加したりできるような環境を整えるのだという強い意志を持って進んでいっていただきたいと思うのです。というのは、国が言ったから仕方がないと最低限のことだけをしている市町村と、もっと積極的に活用していこうとする市町村で、子どもたちに差が出てくるのではないかと思うのです。情報化社会が進んでいくことは必然なので、津市で学んだ子どもたちに、津市で教育が受けられて良かったと思ってもらえるよう、かける時間の面でも、予算の面でも、十分に確保して取り組んでいただきたいです。

津市長 大型テレビを、今回の9月補正予算で83台購入する予定ですし、さらに必要であれば12月補正予算でもチャンスがありますから、現場の声をしっ

かり把握し、充実させていきたいと思ひます。

本日は、いろいろと御意見、ありがとうございました。G I G Aスクール構想をしっかりと進めていくという確認をさせていただきました。

他に事務局から何かありますか。

事務局 特にありません。

津市長 では、以上をもちまして第40回津市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。